

# 2018年度 事業計画

(2018年4月1日から2019年3月31日まで)

特定非営利活動法人 ラムサール・ネットワーク日本

## (1) 調査研究事業

### ●シギ・チドリ部会

昨年度に続き、経団連自然保護基金の援助を受けることができ、啓発行事と、EAAP パートナー会議に取り組み世代交代を準備する。

7月1～9日に九州の生息地でバングラデシュのシギ・チドリ類専門家と保全と、保全に向けた日本からの貢献に着いて考える。12月には、EAAFP パートナー会議に参加し、結果を Shorebird Stepping Stones と共有する。

\* 予算 120 万円

## (2) 保全・再生事業

### ●沖縄の生物多様性

- 1) 泡瀬干潟の早期の鳥獣保護区指定とラムサール条約登録を引き続き働きかける。
- 2) ラムサール条約 COP13 にて提案されているブルーカーボン決議とウミガメ決議を応援するサイドイベントを COP13 で行う。

\* 予算 10 万円

### ●田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクト

#### 1) 国内での活動

田んぼ 10 年プロジェクトの成果の評価と、SDGs、CBD 新戦略を組み込んだ、新田んぼ 10 年行動計画（ポスト 2020）の策定と同プロジェクト立ち上げのための作業部会を設け、学習会等を開催する。田んぼ 10 年プロジェクト推進のために、地域交流会、広報ツール作成、地域情報交換会、田んぼ 10 年だより発行、HP や ML での情報発信と意見交換などを行う。水田決議円卓準備会、水田部会を開催し、にじゅうまるプロジェクト会議に参加する。

#### 2) 国際的な活動

ラムサール条約 COP13（ドバイ）でサイドイベント等を開催し情報の発信・収集を行う。そのための英語版の展示物を作成する。中東（イラン）の水田の現地視察と調査を実施する。CBD COP15（2020 年）に向けた活動に参加する。

台湾の農業試験改良場からの視察受け入れ（大崎市）と生物多様性指標等についての意見交換、フィ

リピン（イフガオ）での田んぼの生きもの調査と現地関係者との意見交換、ヒヤリングを実施する。ICEBA2018（生物の多様性を育む農業国際会議 2018、いすみ市）の水田の生物多様性に関する分科会でフィリピン、韓国からの参加者も招き、アジアレベルでの水田での生物調査法の議論を深める。

\* 予算 680 万円

### ●条約湿地 50 から 100 へ

ラムサール条約 COP13 およびその後の新規の条約登録にむけて地域活動を支援する。また、条約湿地および保全が必要な湿地の維持・管理や利用計画について、環境省や自治体等へ働きかけを行う。

\* 予算 10 万円

### ●プロジェクト WISE

2018 年度のプロジェクト WISE は、特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合（WIJ）と共同実施し、WIJ が香港上海銀行東京支店（HSBC）より受けた寄付によって計 12 か所の湿地保全団体の社会的企業活動を支援する。

\* 予算 40 万円

## (3) 普及・啓発事業

### ●湿地のグリーンウェイブ

現在開催中の湿地のグリーンウェイブ 2018 は、58 のイベントが参加し、国連生物多様性の 10 年日本委員会のグリーンウェイブにも参加登録している。今期のキャンペーン終了後には報告書を作成する。

また、次期キャンペーン（WGW2019）に向けてリーフレットを製作し、報告書と合わせて活用しながら次期キャンペーンへのイベント参加及び企業などへの協賛を呼びかけていく。

なお、湿地のグリーンウェイブ 2018 へは、株式会社アレフより協賛金のご支援をいただいている。また、今後さらなる協賛金や助成金などの獲得を検討し、次期キャンペーンでは、湿地やラムサール条約に詳しい人材を各地のイベントに派遣するなど、地域と全国を結び湿地保全の主流化を図るための活動となるように取り組んでいきたい。

\* 予算 30 万円

## (4) 国際協力事業

### ●日韓湿地 NGO の連携

今年度は、既に 5 月 18 日から 20 日に第 13 回日韓 NGO 湿地フォーラム・国際 NGO ワークショップを石川県河北潟において開催した。現在、10 月 22 日からのラムサール条約締約国会議（COP13・UAE ドバイ）に先立ち、第 14 回日韓 NGO 湿地フォーラム＋国際 NGO ワークショップを開催する方向で韓国 NGO

側と協議している（9月5日から7日を予定）。10月のCOP13では、第12回日韓NGOフォーラム以来準備を進めている「水の流れを止めない（natural flow of water）」キャンペーンについて広報やロビー活動に努め、COP14での決議採択に向けて準備を進めたい。

### ●WWN（世界湿地ネットワーク）

昨年度に組織固めが終了し、執行部・地域代表及びアジア地区の各地域代表が選任された。昨年度末からマネジメント会議・アジア地域代表会議について、開催日を固定し定期的に会議が開催（スカイプ）されることになったので、これらの場で各地域間の情報共有や、世界規模の運動の活性化に貢献したい。

また、昨年度に実施した“市民の科学による世界湿地調査”の調査結果（第1次公表分はWWNホームページ、3月プレCOP会合・スリランカでも発表）について、さらに分析を進めたものを10月のCOP13で発表する方向である。

### ●翻訳プロジェクト

ラムサール条約締約国会議の決議について、2012年COP11（ルーマニア）分以降ごく一部しか日本語訳されていない。CEPA活動や、政府との交渉、COPでの決議の提案についても、これら過去の決議は活用されるべきである。昨年度の終わりからこのプロジェクトを進めているが、今年度は人員を拡充し議論のうえ順次和訳を進めていく。

\* 予算 180 万円（国際協力事業合計）

## (6) ネットワーク推進事業

### ●ニュースレター

昨年度と同様に、2018年度も4回程度発行する（4月初旬、7月初旬、10月初旬、1月初旬）。各地の関連団体や施設などにも積極的に送付して、配布を依頼し、ラムネットJの組織・活動の周知や会員の拡大を図る。今年はニュースレターとは別に、ラムサールCOP13の現地速報をウェブニュースとして発信したい。

\* 予算 20 万円